

## メソアメリカ南部太平洋側地域の建造物に関する一考察

伊 藤 伸 幸

### はじめに

メソアメリカ南部太平洋側地域では、メソアメリカにおける他地域とは異なり、建造物には様々な材料が使われていた。この地域では先古典期より主に土でつくられた建造物が多いが、石でつくられた建造物もみられる。しかし、メソアメリカ南部太平洋側地域において、石の建造物は古典期後期若しくは後古典期まで待たないと主流にならない。一方、隣接するオアハカ地方では先古典期前期に土の建造物が出現するが、モンテ・アルバンが栄え始めると共に土でつくられた建造物は廃れる。メキシコ中央高原においてもクイクイルコ若しくはテオティワカンが栄え始めるころには、石の建造物になってしまう。こうした現象はメソアメリカの他地方でもみられる。

メソアメリカ南部太平洋側地域の建造物については、チアパス高地のチアパ・デ・コロソ遺跡、グアテマラ高地のカミナルフユ遺跡などでは個々の遺跡で特定時期の建造物研究はあるが(Lowe, et. al., 1960; Kidder, et. al., 1946)、地域全体の建造物を扱っている研究は非常に少ない。その中で、A. L. スミスはグアテマラ高地全域の建造物について調査を行い、各遺跡の建造物の特徴を記し (Smith, 1955)、グアテマラ高地建造物の時期的な特質を解明している (Smith, 1965)。この研究では、立地、建築材、建造物部分などに分けて考察を進めている。立地については先古典期から古典期にかけて開けた地が多く、後古典期になると切り立った断崖の上が多くなるとされる。建築材については先古典期は土、粘土が主に使われ、古典期から後古典期には石が多い。また、建造物の様式等についても若干の考察を行っているが、一部を除き時期的な特徴は明確になっていない。今までの研究では、一遺跡若しくは一部地域の建造物研究はされているが、メソアメリカ南部太平洋側地域を網羅する建造物研究はされていない。スミスはグアテマラ高地全域の建造物を扱っているが、発掘調査による資料が少ない。一方、グアテマラ高地を研究対象としているために古典期後期～後古典期に資料が偏っている。また、高地全域を対象にするならばグアテマラ高地だけではなく同じ地域に属するチアパス高地とエル・サルバドル地域に広げる必要がある。太平洋岸地域でも新しい発掘資料が増加している。このうちには先古典期前期の建造物も含まれる。以上のことを考慮すると、新しい発掘資料を加え、メソアメリカ南部の高地から太平洋岸に至る地域の建造物を再検討する必要がある。そして、各建造物の起源を明確にし様々な建造物の系譜を探るならば、メソアメリカ南部太平洋側地域の建造物変遷史が解明できる。

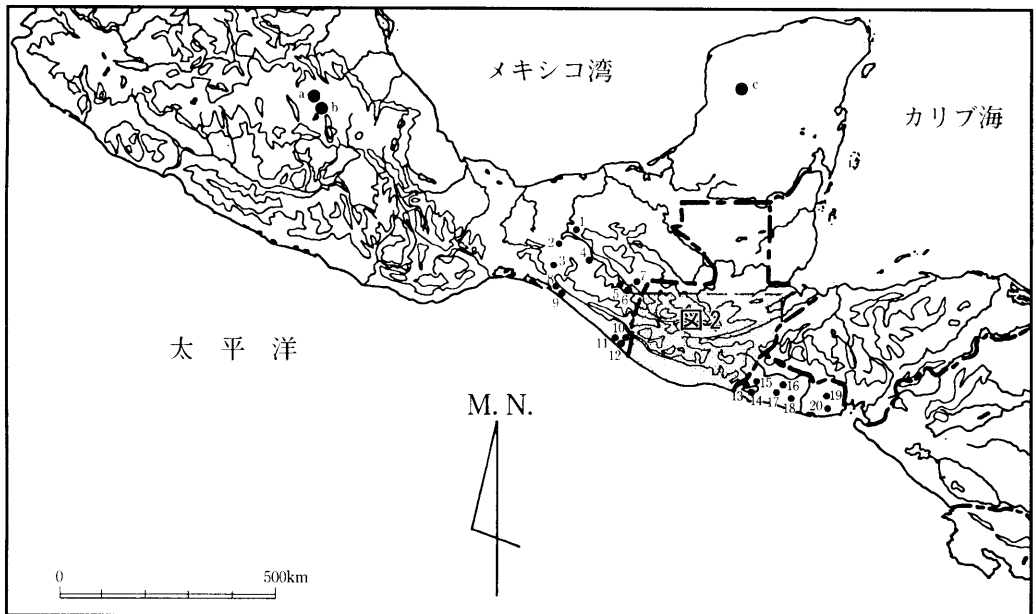


図1 メソアメリカ南部太平洋側地域建築遺構出土遺跡分布図(メキシコ、エル・サルバドル)

メキシコ

- 1, サン・イシドロ; 2, サン・アントニオ, 3, ミラドール; 4, チアパ・デ・コルソ; 5, サンタ・ロサ; 6, サンタ・クルス; 7, ロス・シミアントス; 8, トナラ(イグレシア・ビエハ); 9, ツツクリ; 10, イサバ; 11, アルタミラ; 12, パソ・デ・ラ・アマダ;

エル・サルバドル

- 13, サン・ニコラス; 14, サンタ・レティシア; 15, チャルチュアバ; 16, シワタン; 17, ホヤ・デ・セレン; 18, クスカトラン; 19, ケレバ; 20, ロス・ヤニトス

その他

- a, トゥーラ, b, テオティワカン, c, ウシュマル

ところで、この地域に多くみられる土の建造物は浸食が激しく建造物全体が残る事例が少ない。また、トレンチ発掘なども多いことから建造物全体の様式まで分析することは難しい。このため、この小論では建造物を構成している材料を中心にメソアメリカ南部太平洋側地域の建造物の歴史を考察する。また、様式などの建造物の特徴についてもその各部分が確認できる事例については検討を加える。

メソアメリカ南部太平洋側地域をメキシコ チアパス州テワンテペック地峡からエル・サルバドルまでの範囲で、太平洋岸から高地までの地域とする。高地は、スミスの定義に従って、標高500m以上の地域とする。

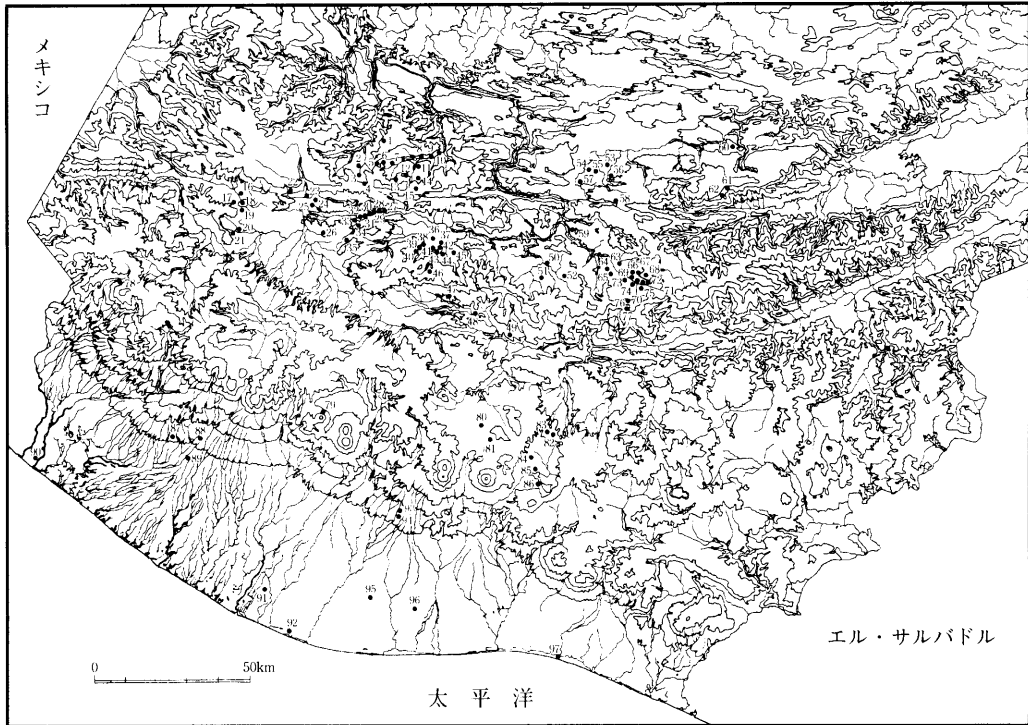


図2 メソアメリカ南部太平洋側地域建築遺構出土遺跡分布図(グアテマラ)

- 1, ウイル; 2, ベトナム; 3, ネバフ; 4, ティシュチュン; 5, プライ; 6, オンカップ; 7, ピカベバル;
- 8, エル・ティグレ; 9, ツィクアイ; 10, サン・フランシスコ・デル・ノルテ; 11, ムチル; 12, ツチョク; 13, アチツ;
- 14, カキシヤイ; 15, チバル; 16, ビオル; 17, チコル; 18, サクレウ; 19, カンボテ; 20, プカル;
- 21, クカル; 22, ウイチュン; 23, チャルチタン; 24, ショルチュン; 25, チチョチェ; 26, コミタンシヨ; 27, シェカタロフ;
- 28, チュイティナミット; 29, チュンチュン; 30, チュティクスティオクス; 31, ショルバコル; 32, リオ・ブランコ;
- 33, ショルチュン; 34, バコット; 35, パンツァク; 36, ラ・イグレシア; 37, ロス・シミアントス;
- 38, シェボン; 39, ショルハ・アルト; 40, ショルハ・バハ; 41, サクラック; 42, パツァック; 43, ヤノ・グランデ;
- 44, ラ・ラグニータ; 45, ロス・セリートス・チホフ; 46, シャバッフ; 47, サクアルパ; 48, ラグナ・セカ;
- 49, ミシュコ・ビエホ; 50, チュイティナミット; 51, ピチェック; 52, カユップ; 53, チチュン; 54, チクシャブ;
- 55, サンタ・エレーナ; 56, サカフ; 57, バルパライツ; 58, チンチャヤ; 59, サン・ハシント; 60, チホロン; 61, エスベランシータ;
- 62, カンチュナック; 63, サン・ファン; 64, ロス・ピノス; 65, ツアルカン; 66, ラス・コンチャス;
- 67, エル・トラビチート; 68, ロス・マンガレス; 69, サンタ・カタリナ; 70, エル・ポルトン; 71, サン・ロレンソ;
- 72, パチャルン; 73, ラス・トゥナス; 74, サント・ドミンゴ; 75, エル・カカオ; 76, シババフ; 77, ラ・ラグネタ;
- 78, タフムルコ; 79, チュイティナミット; 80, チタク・ツァック; 81, サンタ・ロサ; 82, カミナルフユ;
- 83, サン・カルロス; 84, ソラノ; 85, フルタル; 86, メヒカノス; 87, アバフ・タカリク; 88, サンタ・エリサ・バカコ;
- 89, フラメンコ; 90, ラ・ビクトリア; 91, シン・カベサス; 92, テコハテ; 93, エル・バウル;
- 94, ビルバオ; 95, マリナラ; 96, バルベルタ; 97, チキウイタン

## メソアメリカ南部太平洋側地域における建造物(図1, 2)

メソアメリカ南部太平洋側地域を高地と太平洋岸に分ける。グアテマラ高地の中心となるカミナルフユ遺跡に関しては調査が多いため、別に考察をする。また、メソアメリカ地域の南端になるエル・サルバドル地域も別に分析をする。以下、太平洋岸地域、カミナルフユ遺跡、チアパス-

グアテマラ高地、エル・サルバドル地域という順に分析をしていく。建造物は基壇とその上の建造物に分ける。上の建造物は残っていない事例が多い。

### 1) 太平洋岸地域

先古典期前期から後古典期までの建築遺構が確認されている。以下、調査報告に基づいて各時期毎に建築遺構の特徴をまとめる (Arroyo, 1993; Blake, et. al., 1991; Bove, et. al., 1993; Chinchilla, 1998; Coe, 1961; Estrada, et. al., 1997; Ferdon, 1953; García, 1997; Green, et. al., 1967; Lee, 1974; Lowe, et. al., 1982; McDonald, 1983; Medrano, 1996; Parsons, 1967, 1969; Ponciano, 1993; Sánchez, 1995; Schieber, 1994; Thompson, 1948; Whitley, 1989)。

#### 先古典期前期

パソ・デ・ラ・アマダ、チキウイタン遺跡で確認されている。粘土、砂を使って建造物をつくっている。パソ・デ・ラ・アマダ遺跡の方向軸はN-E 42°である。仕上げは明らかではないが、白い薄層が確認されている。また、30 (径) × 70 (深) cmの柱穴が検出されている (図3)。テコハテ遺跡では床面のみしか検出されていない。ラ・ビクトリア遺跡では土の建造物の一部と思われる部分があるが、詳細は不明である。

#### 先古典期中期

ツツクリ、イサバ遺跡で確認されている。土、粘土、砂、石が使用されていた。石と粘土を使い、外壁をつくっている。ツツクリ遺跡ではN-E 38°、イサバ遺跡ではN-E 20°の方向軸に従って建造物がつくられている。

#### 先古典期後期

イサバ、シン・カベサス、バルベルタ、ビルバオ遺跡で確認されている。土、粘土、砂、石、火山灰、軽石、平石が使われていた。基壇の中心部分は土が主となっている事例が多い。石でつくられた外壁をもつ基壇が確認されている。仕上げは石灰若しくは漆喰である。また、平石で階段部分がつくられる基壇があった。しかし、多くは土だけ若しくは土を主につかっただけの基壇である。基壇上の建造物の痕跡として柱穴が検出

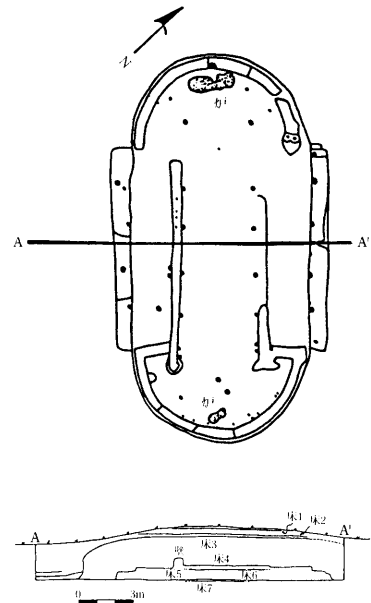


図3 パソ・デ・ラ・アマダ遺跡で検出された建造物 (Blake, et. al., 1991, fig. 5 を改変。)

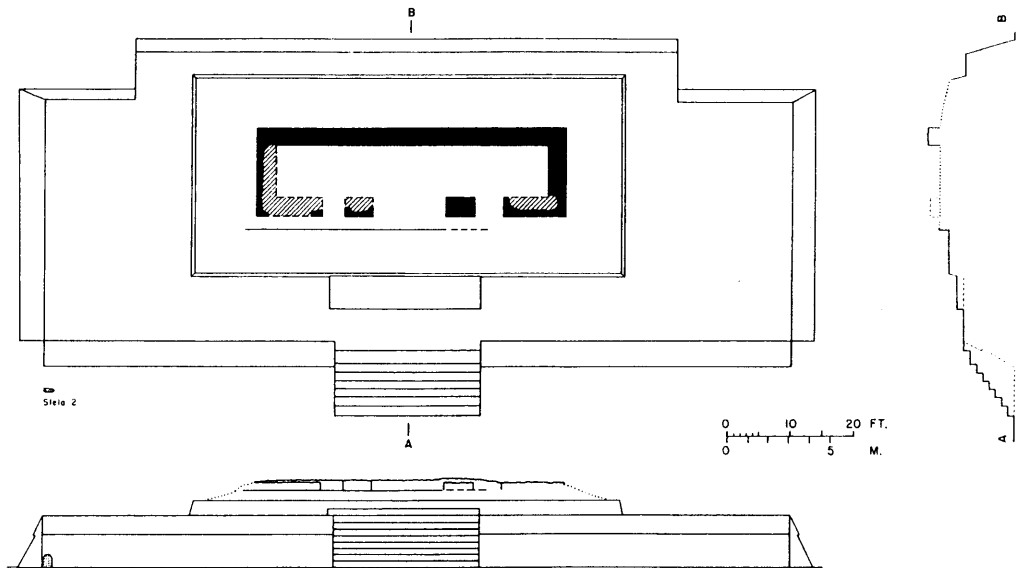


図4 トナラ遺跡C-10建造物  
(Ferdon, 1953, fig. 9を改変。)

される基壇もある。イサパ遺跡ではN-E 20°の方向軸を持つ。

#### 古典期前期

イサパ、バルベルタ、マリナラ遺跡で建造物が検出されている。平石、土、軽石、火山灰、川原石で基壇がつけられていた。多くの基壇では仕上げの痕跡が検出されていないため、外壁がどのようなになっていたか不明である。階段と外壁が平石でつくられ、漆喰で仕上げをしている基壇がある。川原石を泥で積み上げた基壇もある。また、赤彩の痕跡がある基壇もある。何れの遺跡も、N-E 20°の方向軸に従って建造物がつけられている。

#### 古典期中期

ビルバオ遺跡で検出されている。平石、土、川原石、砂利などで建造物がつけられている。粘土若しくは泥漆喰で仕上げがされている。川原石で覆われる基壇もある。建造物は、N-E 19°若しくはN-E 30°の方向軸に従ってつけられていた。

#### 古典期後期

エル・バウル、ビルバオ遺跡において確認されている。土、粘土、川原石、石ブロック、平石などで建造物がつけられている。中心部分は土でつけられるが、壁は石でつけられる。平石の壁

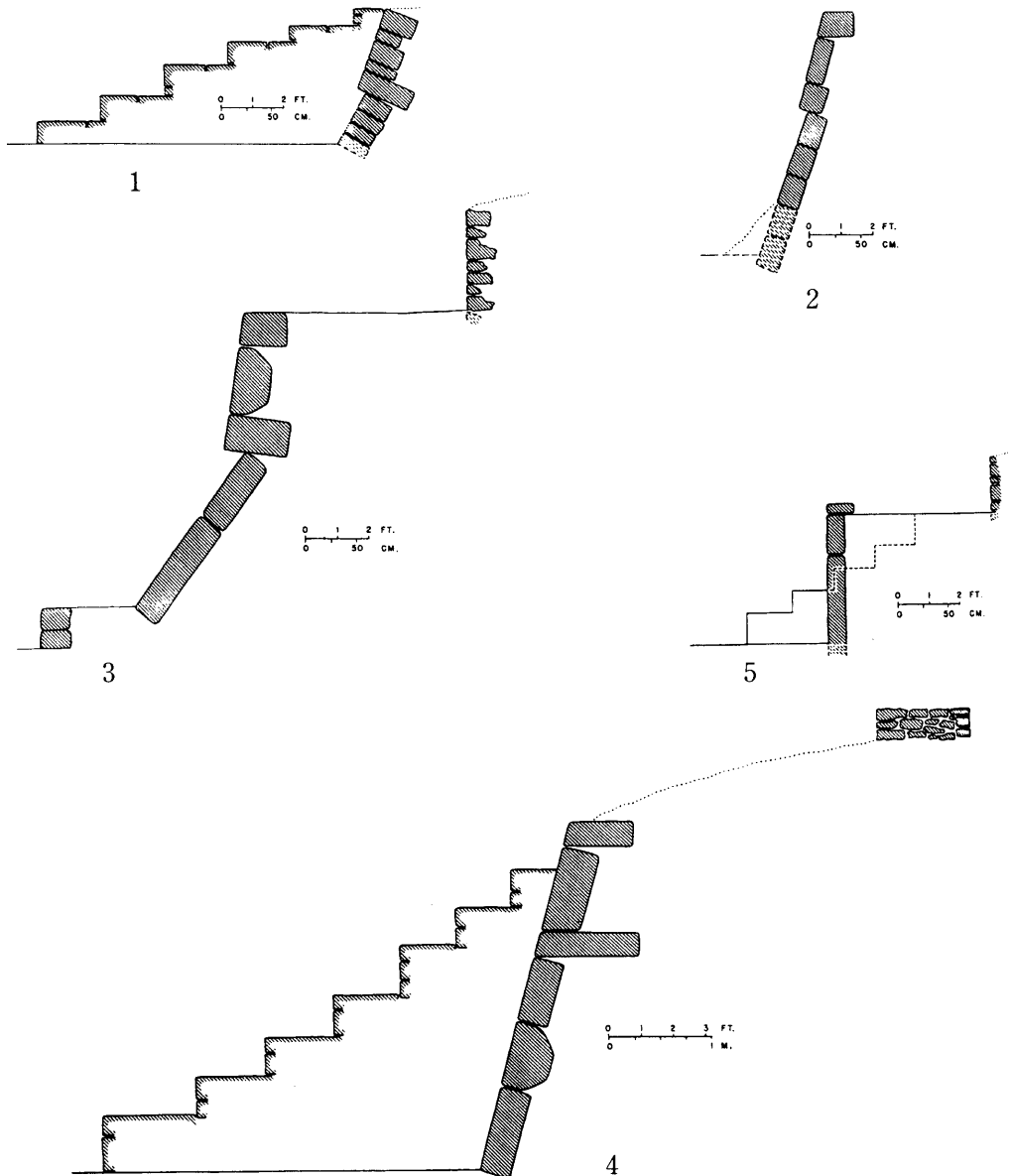


図5 トナラ遺跡建造物断面図

1, D-12建造物； 2, B-3建造物； 3, A-1建造物； 4, D-2建造物； 5, A-2建造物  
 (Ferdon, 1953, fig. 1, 3, 7, 12, 14を改変。)

では外側に平らな面を出している。川原石で覆われる基壇もある。エル・バウルでは石ブロックでつくられた建造物がある。この建造物はモルタルで仕上げられた後、更に漆喰で上塗りがされている。建造物はN-E 17-30°そしてN-W 2-5°の方向軸に従ってつくられていた。

#### 古典期末～征服期

3例のみ報告されている。サンタ・エリサ・パカコ、ロス・セリートス遺跡で検出されている。土と石でつくられているということ以外は不明である。

#### 2) カミナルフユ遺跡

カミナルフユ遺跡では先古典期中期から後古典期までの建造物がみられる。ここではカミナルフユ遺跡の建造物を考察した後に、その周辺地域の建造物について検討を加える。以下、報告に基づき、時期別に建造物の特徴をまとめる (Austin, 1969; Ball, 1973; Bebrich, 1969; Bebrich, et. al., 1973; Berlin, 1952; Brown, 1973; Cardenas, 1969; Cheek, 1977; De León, 1996; Escobedo, et. al., 1996; Kidder, et. al., 1946; Kirsch, 1973; López, et. al., 1992; Martínez, et. al., 1996; Reynolds, et. al., 1973; Román, 1990; Shook, 1952; Shook, et. al., 1952; Shook, et. al., 1942; Suasnívar, et. al., 1992; Webster, 1973)。

#### 先古典期中期

カミナルフユ遺跡では先古典期中期の建造物がもっとも早い時期の建造物である。

マウンドA-IV-2; A-V-11, 16; A-VI-1; B-V-3, 5, 9, 16とモンゴイ地区の焼けた建造物が確認された。建造物は主にタルペタテ、粘土、砂からできており、夫々が交じり合った層や単独の層が重なっている。これらの建造物の基壇で平面形が確認できるものは総て方形であった。B-V-5では3段であった。これらの基壇の上には何らかの建造物がたっていたものと推定されるが、遺構として残っているものが無い。一方、こうした基壇と関連して組織痕の残っている焼土塊が出土していることと、柱穴が基壇の上面から検出されていることから土壁を持つ建造物がたっていた可能性がある。焼けた建造物の壁はN-E 13°の方向軸に従ってつくられていた。焼けた建造物の仕上げは泥漆喰であった。B-V-5では3段の方形基壇からタルペタテ塊でつくられた方形部分が基壇の基部から張り出している。B-V-3では基壇の1つの側面にタルペタテ塊が列を成し階段状に並んでいる。この部分にタルペタテ塊で階段をつくっていた可能性が高い。

#### 先古典期後期～古典期前期

マウンドA-IV-1; B-II-1; B-III-1; B-IV-6; B-V-4, 6, 8, 14, 15; D-III-13 (図7-4), E-III-3、パラガンガ地区、モンゴイ地区 (図6) において建造物を検出した。

建造物はタルペタテ、粘土、砂を主としている。この時期も、建造物の構造をみると夫々が交

じり合った層や単独の層が重なって建造物をつくっている。我々の行ったモンゴイ地区とチャイ地区での発掘から、建造物の構造を復元してみる。最初にタルペタテを主に使い碗状になる容器をつくりその中に粘土を中心とする土を入れ基壇をつくる。こうした土の容器を積み重ねることにより高い基壇をつくっている。タルペタテや粘土などで基壇の仕上げをしていた。

基壇上の建造物は殆ど残っていなかった。しかし、カミナルフユ遺跡では基壇に関連して焼土片が出土し、基壇の上面から柱穴も検出されている。こうした事を考慮すると、上の建造物は柱と土壁を持つ建造物である可能性が高い。建造物の方向軸はN-E 13-18°とN-E 25-30°に大体分かれている。D-III-13のM建造物には階段の上部にブロック状遺構が確認され、白、赤の彩色もみられる。また、B-III-1では赤、緑、黒、E-III-3では黒、橙赤、赤、青緑の彩色が確認された。

#### 古典期中期

マウンドB-III-2, 3, 4, 5; B-V-10, 11, 14, 15, 16; F-VI-1, 2とパラングナ地区でみられる。

タルペタテ、粘土、砂の他にアドベ・ブロック、軽石、平石が使われる。建造物の構造はタルペタテ、粘土などで建造物の中心部分をつくり、軽石若しくは軽石ブロックで外壁を整え、仕上げにモルタルを施している。アドベ・ブロックの大きさは35×40×15 cm、85×25×15 cmである。大きなアドベ・ブロックは階段に、小さなアドベ・ブロックは壁に使われていた。軽石はブロック状に整形されていたものもある。パラングナ地区D-2建造物の階段には川原石の裏込めがしてあった。仕上げにはモルタルが使われ始めるが、泥漆喰も引き続き使用された。赤、緑、黄、ピンク、白の彩色がみられる。C-II-4では古典期中期における初めての建造物はモルタルで仕上げられているが、古典期中期最期の建造物では粘土や泥漆喰の事例もある。他では、粗雑なモルタルになる場合もある。F-VI-1では垂直壁の基壇から斜壁+張出し部+垂直壁(図7-3)に変わりそしてター・タブレロ式(図7-1)に変化した。F-VI-2(図7-2, 5)では斜壁一段のものからター・タブレロ式に変化した。

基壇上の建造物はマウンドB-V-15のSTR. C-2aにおいて軽石と泥漆喰でできた壁の一部が残っていた。マウンドC-II-4のSTR. Iでは土壁と部屋内部のベンチ状遺構が検出された。この壁は35×22×15 cmのアドベ・ブロックでつくられていた。F-IV-1では基壇の上に土壁が検出された。また、基壇上面には柱穴も検出されている。階段には袖部分がつくられる。建築に使われた方向軸はN-E 24-30°である。

#### 古典期後期

パラングナ地区、コティオ地区、チャイ地区、マウンドB-IV-4, 9; C-II-4, A-V-11, A-VI-1において確認されている。タルペタテ、粘土、砂、川原石、アドベ・ブロックを使用している。パラングナ地区において川原石などの石列とアドベ・ブロックを組み合わせる建造物をつくっている事例がある。また、仕上げはモルタルでなく、泥漆喰のみである。赤、青、緑、黄色の彩色



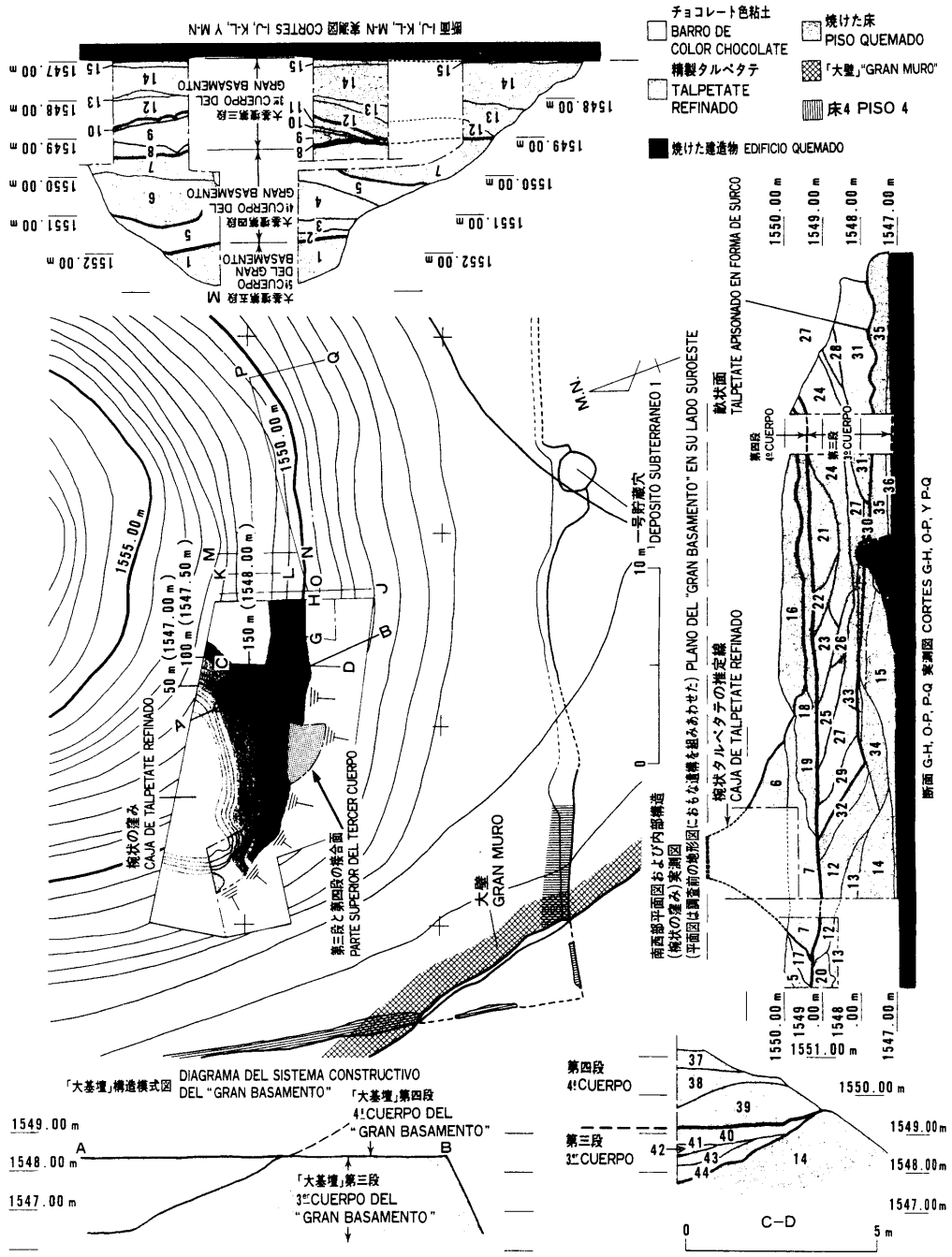


図 6 カミナルフユ遺跡モンゴイ地区大基壇  
(Ohi, ed., 1995, fig. 2-III-1 より)

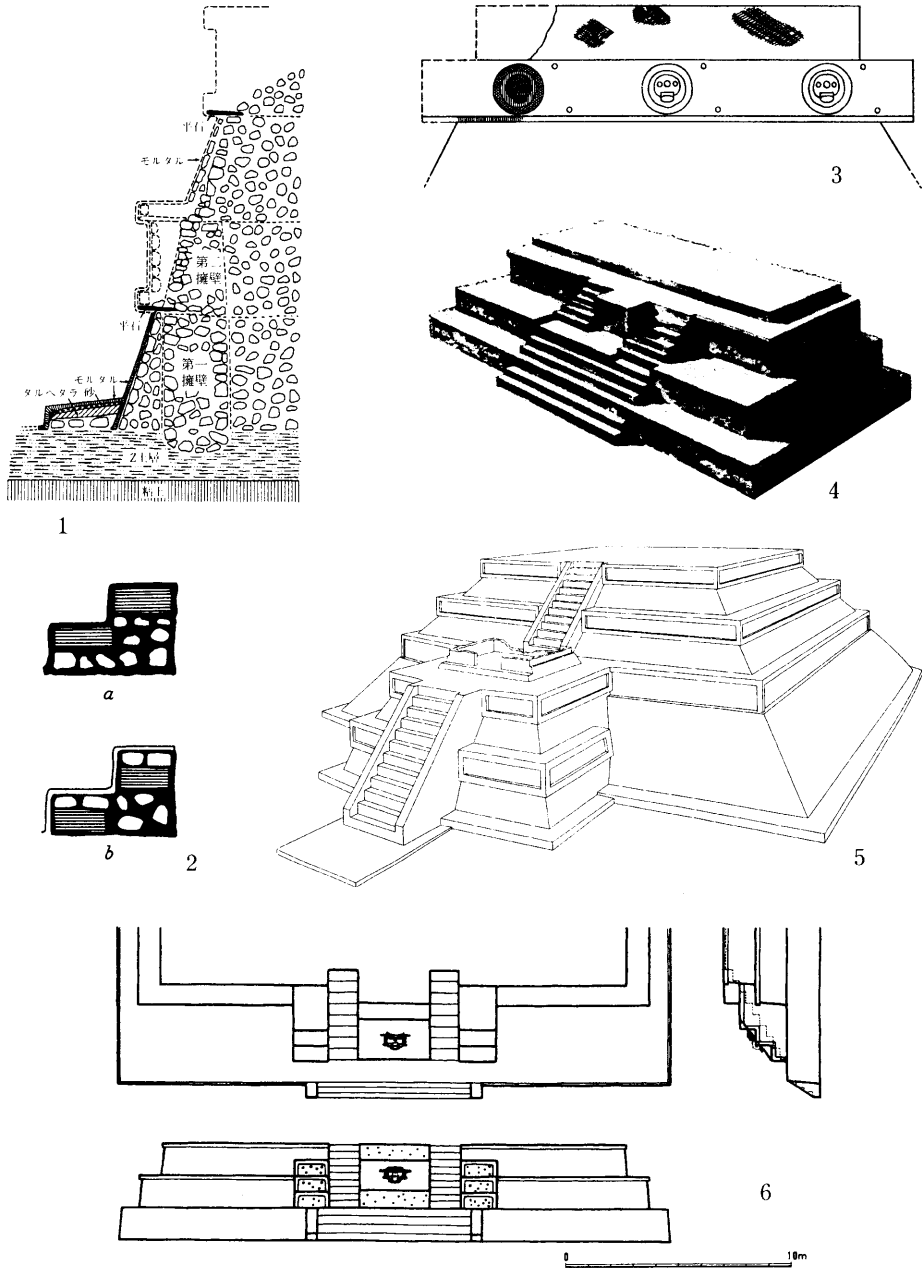


図7 カミナルフユ遺跡の建造物

1, A-7建造物； 2, B-4建造物階段部分断面図(白=軽石, 横線=アドベ・ブロック)； 3, A-5建造物(縦線=緑, 格子=赤)； 4, マウンドD-III-13, M建造物； 5, B-4建造物； 6, チャイ神殿建造物1復元図  
(Berlin, 1952, fig. 4； Ohi, ed., 1995, fig. 4-5； Kidder, et. al., 1946, fig. 7, 10, 15, 113を改変)

がみられた。チャイ地区では土製装飾が施された斜壁と黒曜石の装飾がある枠の付いた垂直壁を持つ建造物がみられた(図7-6)。マウンドC-II-4のSTR. Rは軽石列が古典期後期でも確認できる建造物である。基壇上の建造物は確認できていない。建築に使われた方向軸はN-E 27°とN-E 16°である。

#### 後古典期

A-VI-6では後古典期前期の建造物が1例報告されているのみである。土の建造物である可能性が高い。カミナルフユ遺跡では後古典期になると遺構遺物は非常に少なくなる。

#### カミナルフユ遺跡周辺地域

ここでは、カミナルフユ遺跡周辺から検出された建造物を検討する。ソラノ、フルタル、サン・カルロス、サンタ・ロサ、チタク・ツァックの各遺跡において建造物がみられる。時期的には先古典期中期から後古典期前期までである(Brown, 1977; Martínez, et. al., 1998; Robinson, 1993, 1994)。

先古典期中期にはサン・カルロス遺跡で粘土、砂、タルペタテで作られた建造物が確認された。先古典期後期にはソラノ遺跡において建造物が確認されているが、粘土で作られたとされている。古典期前期にはフルタル遺跡において粘土などで作られた建造物が報告されている。古典期中期には粘土、砂、タルペタテの他にアドベ・ブロック、軽ブロック、石ブロック、平石などが使われるようになり、モルタルで仕上げられる。軽石ブロックは大小があり、軽石小ブロックは12×12×12 cmと報告される。軽石ブロックは外壁に使われ、軽石の小ブロックは平石の上のせられタブレロ部分をつくる際に使われた。凝灰岩ブロックは40×20×17 cmで、階段部分をつくる際に使われた。アドベ・ブロックの大きさは35×25×15 cmで外壁の基礎に使用された。基壇の中心部分は粘土、砂、タルペタテ、軽石を主としているが、外壁は軽石塊、軽石ブロック、アドベ・ブロックと粘土などで壁をつくり、最後にモルタルで仕上げをしている。平石はターラー・タブレロ式建造物のタブレロをターラーにのせる部分に使われていた。一方、ターラー・タブレロ式だけでなく、斜壁と垂直壁のみからなる建造物もある。古典期後期になると粘土、タルペタテ、軽石、タルペタテ・ブロック、軽石ブロックなどで建造物がつくられている。仕上げは不明である。後古典期前期はフルタル遺跡でのみ確認されており、粘土と軽石塊で作られていた。後古典期後期はチタク・ツァック遺跡で確認されており、中心部はタルペタテ塊と黄色土でできており、平石で壁をつくり、最後は泥漆喰で仕上げられていた。床面には白漆喰が残っているため、泥漆喰を施した後、白漆喰で仕上げた可能性も考えられる。また、基壇上の建造物は確認されていない。

### 3) メソアメリカ南部高地：チアパス高地からグアテマラ高地まで

この地域では先古典期中期から後古典期後期までの建造物が確認されている。また、チアパス高地の間に流れるグリハルバ川沿いの標高500m以下のサン・アントニオ、サン・イシドロ、サンタ・ロサ遺跡はここに含める。

以下、調査報告に基づいて各時期毎に建造物の特徴をまとめる (Agrinier, 1969, 1970, 1975a, b; Delgado, 1965; Dutton, et. al., 1943; Hicks, et. al., 1960; Ichon, 1992; Lothrop, 1933; Lowe, 1962; Lowe, et. al., 1960; Mason, 1960; Peterson, 1963; Rivero T., 1987; Sanders, 1961; Sharer, et. al., 1987; Smith, 1955; Smith, et. al., 1951; Wauchope, 1948; Woodbury, et. al., 1953)。

#### 先古典期中期

ミラドール、チアパ・デ・コルソ (図8-1, 2, 9-1)、アバフ・タカリク、ラス・トゥナス、ロス・マンガレス遺跡で建造物が確認されている。また、チアパ・デ・コルソ遺跡では先古典期前期の建造物があった可能性もあるが、確認されていない。

チアパ・デ・コルソ、アバフ・タカリク遺跡では中心部に土を使っているが、外壁には石を使っている。しかし、仕上げの痕跡はみられない。一方、ミラドールとアバフ・タカリク遺跡では土の建造物が確認されている。グアテマラ高地のラス・トゥナス、ロス・マンガレス遺跡では火山灰、粘土、土、石、砂利が使われている。ロス・マンガレス遺跡では擁壁に石が使われているが、外壁には石が使用されていない。構造としては土、粘土、火山灰を使って建造物をつくっている。また、ロス・マンガレス遺跡では大きな平石を利用して墓をつくっているが、基壇には使われていない。仕上げには泥漆喰や粘土が使われていた。建築に使用された方向軸はチアパ・デ・コルソ遺跡ではN-E 20°、ラス・トゥナス遺跡ではN-E 10-30°である。

#### 先古典期後期

ミラドール、サン・イシドロ、チアパ・デ・コルソ、サンタ・ロサ、エル・ポルトン、ラス・トゥナス、ロス・マンガレス遺跡で確認されている。

ミラドール、サン・イシドロ、チアパ・デ・コルソ、サンタ・ロサ遺跡では石、割石、石ブロック、アドベ・ブロックなどが使われ、仕上げには泥漆喰、モルタル、漆喰が使用されていた。この時期に石造建造物がつくられ始める。斜壁と垂直壁を組み合わせた建造物がみられる。一つの建造物壁面には漆喰装飾が施されていた。仕上げは漆喰が多いが、石灰や泥漆喰の場合もある。モルタルも1例あった。泥漆喰の上に漆喰を施す場合もあった。石ブロックは石灰岩よりできていた。また、壁は赤彩されている事例もある。ラス・トゥナス、エル・ポルトン、サカフ遺跡では粘土、土、タルペタテ、火山灰などで建造物がつくられている。また、砂利も利用されている。仕上げは泥漆喰若しくは粘土である。垂直壁のみで斜壁は建造物に適用されていない。建造物は

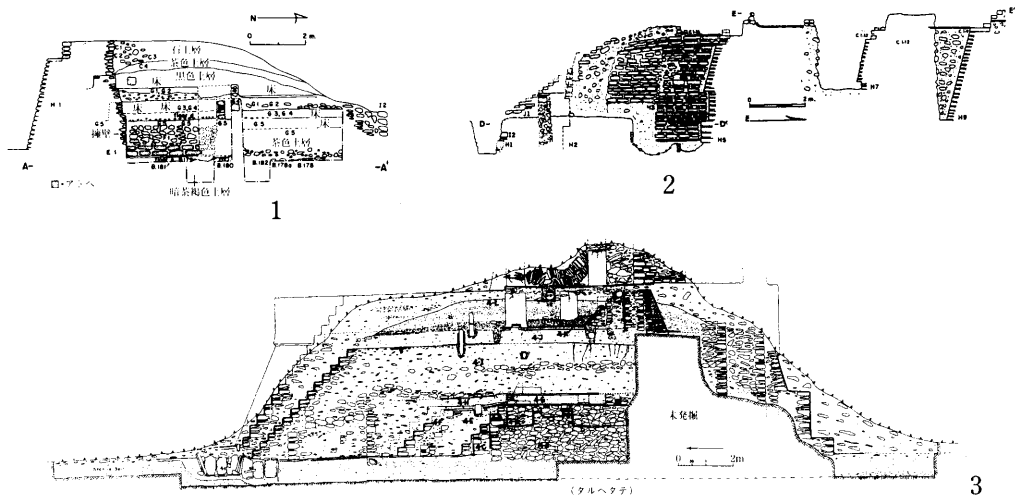


図8 メソアメリカ南部高地の建造物断面図

1, チアパ・デ・コロソ遺跡 1a号マウンド断面図; 2, チアパ・デ・コロソ遺跡1号マウンド断面図; 3, サクレウ遺跡4号建造物断面図

(Agrinier, 1975, fig. 6; Lowe, et.al., 1960, fig. 17; Woodburry, et. al., 1953, fig. 10を改変)

チアパ・デ・コロソ、サンタ・ロサ、エル・ポルトン、ラス・トゥナス遺跡ではN-E 19-21°、サン・イシドロ遺跡ではN-E 35°とN-E 45°の方向軸に従っている。

#### 古典期前期

サン・イシドロ、ミラドール、チアパ・デ・コロソ、サンタ・ロサ、サクレウ、ネバフ遺跡において確認できる。

平石、割石、石ブロック、タルベタテ、火山灰、砂利などで作られている。基壇の中心部分は土、粘土などで作られ、外壁は割石や平石を土で積み上げている。仕上げは殆どが漆喰であるが、サクレウ遺跡の1つの建造物ではタルベタテと火山灰を混ぜたもので仕上げをしている。サクレウ遺跡では階段にブロック状の張出しをつけていた。チアパ・デ・コロソ、ネバフ遺跡などでは、階段の両端につけられる手摺状の袖部が観察できる。サクレウ遺跡では袖上部が垂直壁になっている。平面円形の基壇も確認された。サン・イシドロ遺跡ではN-E 35°、チアパ・デ・コロソ、サンタ・ロサ、ネバフ遺跡ではN-E 19-21°の方向軸を持つことが確認された。

#### 古典期後期

サン・イシドロ、ロス・シミアントス、サン・アントニオ、サクレウ、サクアルパ、ネバフ、ロス・セリートス、チホッフ、ロス・マンガレス遺跡において建造物が確認された。

平石、石ブロック、川原石、割石、粘土、土などが使われていた。建造物の中心部分は土など

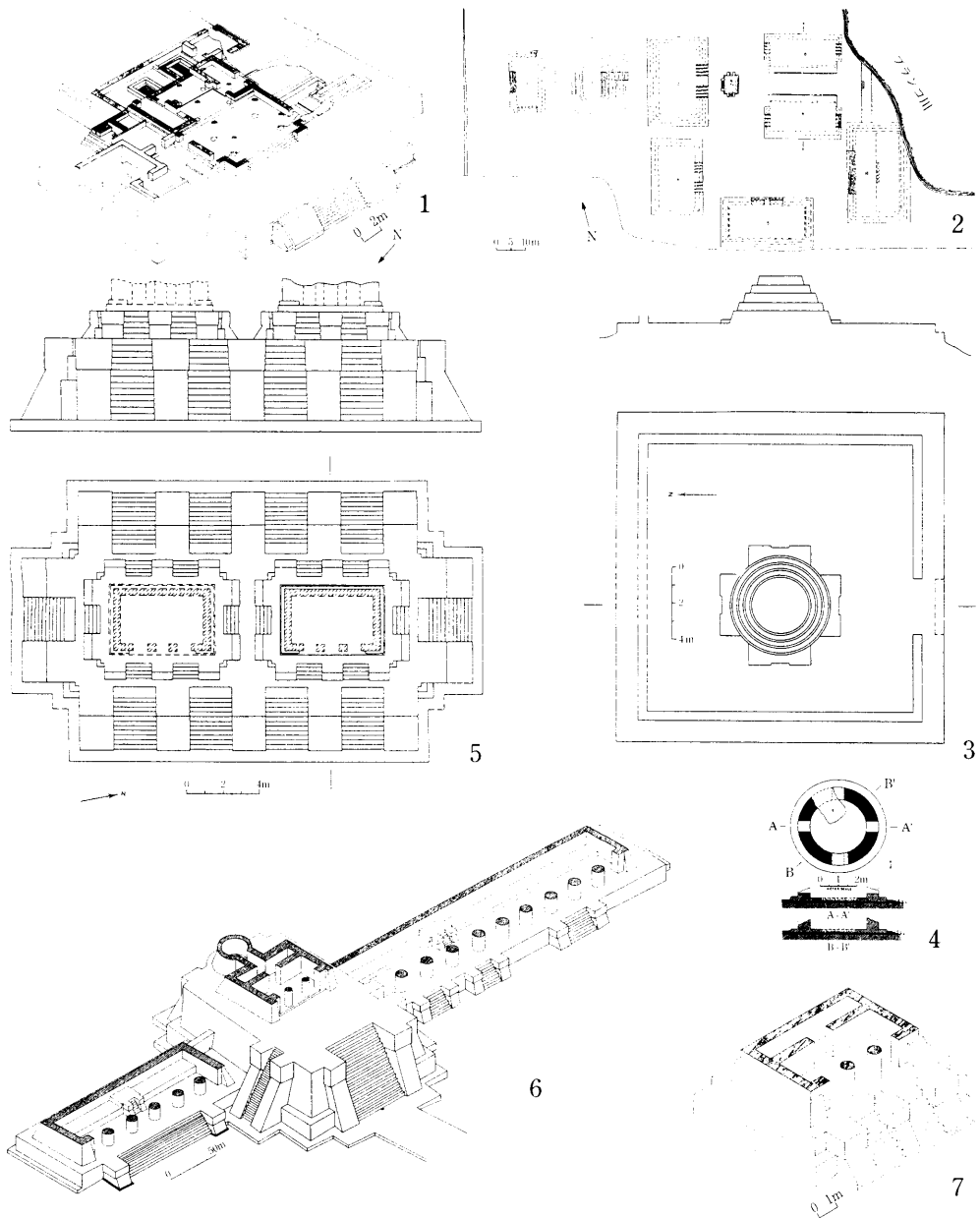


図9 メソアメリカ南部高地の建造物

1, チアパ・デ・コロソ遺跡5-H1建造物； 2, ショルチュン遺跡平面図； 3, カユップ遺跡D-1建造物； 4, ショルパ  
 コル遺跡6号建造物； 5, カユップ遺跡A-2建造物； 6, サクレウ遺跡4号建造物； 7, サクレウ遺跡17号建造物  
 (Lowe, 1962, fig. 2； Smith, 1955, fig. 71, 76a, 104, 108a.； Woodburry, 1953, fig. 9, 26 を改変)

でつくられる場合が多いが、平石を積み上げてつくられた基壇もあった。壁は平石、石ブロック、川原石を土で積み上げていた。泥漆喰や粘土の事例もあるが、仕上げは漆喰が多い。壁に赤彩の痕跡もみられた。階段中央にブロック状部分を持つ基壇がある。上部で垂直壁になる階段の袖の事例もある。平面円形の基壇もある。建築軸は東偏や西偏がありその度合いも様々で、余り統一性はない。

#### 後古典期前期

タフムルコ、サクレウ (図8-3; 9-6, 7)、サクアルパ、ロス・セリートス遺跡で確認されている。

平石、石ブロック、粘土、タルベタテなどで建造物がつくられた。中心部分は土などでつくられるが、壁は石を泥などで積み上げていた。サクレウ遺跡ではアドベ・ブロックの建造物が一基確認された。アドベ・ブロックの大きさは40×30×15 cmで、壁をつくるために使われた。サクアルパ遺跡で使われていた切石は20×24 cmの大きさと、外壁をつくっていた。仕上げは泥漆喰の割合が多くなり、漆喰仕上げの割合が減っている。また、泥漆喰の上に漆喰の薄層を施す事例、漆喰の上に泥漆喰を施す事例もあった。基壇とその上の建造物の外壁を漆喰で、内壁を泥漆喰で施す事例も確認された。他にも、壁に赤彩された痕跡も確認されている。薄い平石を壁面に貼る事例も1例あった。階段にブロック状部分、袖が確認される事例もある。建造物の軸はサクアルパ遺跡ではN-E 30°であったが、サクレウ遺跡では様々な軸が使われていたようである。

#### 後古典期後期

サクレウ遺跡 (図8-3) において建造物が確認されている。

平石、割石、川原石、土などで建造物がつくられている。建造物の中心部分は土を主体としている場合が多いが、石を使う場合もある。平石などの石を泥で積み上げて外壁をつくっている。漆喰の仕上げが多いが、泥漆喰の事例もある。これらの仕上げには2層になっている事例も確認されている。階段には中央のブロック状部分や袖部分を持つ事例があった。サクレウ遺跡では建造物に様々な軸が使われていた。

#### 4) メソアメリカの南端部：エル・サルバドル地域

この地域では先古典期中期から後古典期までの建造物が確認されている。以下、調査報告に基づいて各時期毎に建造物の特徴をまとめる (Andrews, 1976; Boggs, 1943, 1945, 1967; Bruhns, 1980; Demarest, 1986; Fowler, 1977; Kelley, 1988; Longyear, 1944; Navarrete, 1972, Sharer, 1987; Sheets, 1983; Velásquez, 1997)

### 先古典期中期

サンタ・レティシア遺跡とチャルチュアパ遺跡エル・トラピチェ地区で確認されている。土を中心部分に入れ、外壁を石で整えている。他の事例では土が建造物に使用されていたとわかるのみである。しかし、壁の仕上げについての情報は無い。

### 先古典期後期

サン・ニコラス遺跡、チャルチュアパ遺跡エル・トラピチェ地区とカサ・ブランカ地区、アシエンダ・ロス・フローレス遺跡、ケレパ遺跡で確認されている。

建築材は土、石、川原石、アドベ・ブロック、砂利である。粘土と砂を互層にする場合、土と川原石が混じる層が中心となる場合が確認されている。アドベ・ブロックは部分的に集中した部分があったと報告されているのみで、詳細は不明である。砂利は階段部分に使われていた。仕上げは泥漆喰が確認されている。泥漆喰には草が混じっている場合があり、混和材として草が使われた可能性がある。また、アシエンダ・ロス・フローレス遺跡では円形基壇の一部が検出されている。方向軸はチャルチュアパ遺跡ではN-E 8°と13°が確認されている。

### 古典期前期

ケレパ遺跡とホヤ・デ・セレン遺跡で確認されている。

ケレパ遺跡では土、粘土、石が使用されている。石は平たいブロックである。しかし、ホヤ・デ・セレン遺跡では土のみである。ケレパ遺跡では土と川原石で基壇の中心部分をつくり、壁は平たい石ブロックでつくられていた。また、基壇には平たい石ブロックで階段若しくはランパがつけられた。一方、ホヤ・デ・セレン遺跡では、土の建造物ばかりである。径の小さな竹状のもので格子をつくり、それを基礎にして土壁をつくっている事例と、土を固めて壁をつくる事例が確認された。N-E 5°とN-W 4.5°の方向軸がある。

### 古典期中期

チャルチュアパ遺跡カサ・ブランカ地区で確認された。

土、石が中心となる建築材である。所々、基壇内部でブロック状に石を擁壁として使用している。また、仕上げの前に石を使って壁を整え、泥漆喰で仕上げている。N-E 13°と同16°が方向軸である。

### 古典期後期

タスマル、サン・アンドレス、ヤニト、ケレパ遺跡で確認されている。

建造物は平石、アドベ・ブロック、軽石ブロック、石ブロック、タルベタテ、火山灰、軽石などからつくられている。タスマルとサン・アンドレス遺跡ではアドベ・ブロックで建造物がつく



られ、前者はモルタルで後者は漆喰で仕上げがしてある。アドベ・ブロックの大きさは、前者では $37 \times 37 \times 15$ 若しくは $24 \times 27 \times 15$  cmで、後者では $67-73 \times 32 \times 17$  cmであった。ヤニト遺跡では石、石ブロック若しくは軽石ブロックでつくられた外壁を持ち、その内側には土や火山灰が詰められている。サン・アンドレス遺跡でも石ブロックでつくられた階段状方形基壇があるケレパ遺跡では石混じりの土を石壁の中に入れていた。壁は平たい石ブロックでつくられていた。前の時期のより大きな切石を再利用しているところもある。方向軸はチャルチュアパ遺跡タスマル地区でN-E  $10^\circ$ 、サン・アンドレス遺跡でN-E  $20^\circ$ 、ケレパ遺跡でN-E  $2-5^\circ$ ,  $7-9^\circ$ ,  $12-13^\circ$ である。

### 後古典期

チャルチュアパ遺跡ペナテ地区、シワタン遺跡、クスカトラン遺跡で確認されている。

これらの遺跡では平石、土、石が建築に使われていた。壁は平石若しくは石ブロックで構築され、その内部は土と石が入れられていた。ペナテ地区でN-E $12^\circ$ とN-E  $14^\circ$ が確認されている。

### 5) まとめ

最後に、メソアメリカ南部太平洋側地域の建造物について建築材別にまとめる。土、火山灰、砂、アドベ・ブロック、石の順に考察していく。また、建造物の壁に施された仕上げ、建造物の形と建造物がつくられるときに使われた方向軸についても検討する。

土：太平洋岸では、先古典期前期から建造物に土が使用されている。カミナルフユ遺跡では、石は全く使われずに先古典期中期から土、粘土、砂で建造物がつくられていた。タルペタテという黄褐色で非常に固い火山灰起源の土が使われている。同様の土の建造物はカミナルフユ遺跡周辺、北のマヤ低地に至る斜面と太平洋岸に至る斜面に広がる。また、タルペタテではないが、土でつくられた建造物はグアテマラ高地からエル・サルバドルに広がっている。土は石が外壁に使われるようになって壁の内側を詰めるために使われていた。

火山灰若しくは砂：砂や火山灰は先古典期前期より、建築材の一つとして使われていた。また、エル・サルバドル地域では古典期後期に石の外壁をつくった後に火山灰を内側に詰めてつくっている建造物がある。

アドベ・ブロック：太平洋岸では、事例が無い。先古典期後期になるとチアパス高地でアドベ・ブロックが建造物に使用された。一方、カミナルフユ遺跡では古典期中期～後期に使用されていた。大小のものがあり、大きなアドベ・ブロックは階段を、小さなアドベ・ブロックは壁をつくるために使われていた。エル・サルバドルでも先古典期後期からアドベ・ブロックが使われ、古典期後期には主にアドベ・ブロックでつくられた建造物もある。

石：石が壁などに使われる建造物は、メソアメリカ南部太平洋側全域で先古典期中期より出現する。太平洋岸では川原石、高地では川原石、平石などが使われている。石ブロックは高地で先

古典期後期に始まる。カミナルフユ遺跡とその周辺では、古典期前期若しくは中期には軽石ブロックがタルー・タブレロ式建造物と共に出現する。カミナルフユ遺跡では古典期後期になると若干の建造物で軽石ブロックが使われているが、大部分の建造物では軽石ブロックを始めとする石は殆ど使われなくなる。古典期後期になると、先古典期後期に部分的に使用され始められた平石と石ブロックは太平洋岸や高地では多くの建造物で外壁にも使用される。また、エル・サルバドル地域では平石の他に軽石ブロックや石ブロックでつくられる建造物がみられる。グアテマラ高地では、チホルン遺跡などできれいに仕上げられた石ブロックがみられる。エル・サルバドル地域では平たい石ブロックでつくられたランパがみられる。この種のランパはグアテマラ高地にもみられる。一方、石ブロックのなかには非常に大きな石ブロックを使う例が、トナラ(図4, 5)、メヒカノス、セアカル遺跡などにみられる。トナラやメヒカノス遺跡では一辺が1mを超す石ブロックが建造物につかわれ、セアカル遺跡では良質の石ブロック(1.86×0.48×0.42 m)が広場の側壁に使われていた。時期については何れも不明であるが、表採土器は古典期後期が多い。後古典期には石ブロックと平石の建造物が高地の大半でみられる。この時期、太平洋岸には石で基礎がつけられた住居址があるのみである。先古典期後期、エル・サルバドル地域では砂利が階段部分に使われている建造物がある。

仕上げ：先古典期前期より、土でつくられた建造物についてはエル・サルバドルの例を除くと総て泥漆喰が使われており、泥漆喰が数層になっている事例もある。このために、定期的若しくは必要に応じて塗り重ねられたと思われる。これは、補修、儀礼等の理由が考えられるが、更に検討を重ねる必要がある。泥漆喰には草が混ぜられる事例もあった。石の建造物では先古典期後期より漆喰若しくはモルタルで仕上げられる事例が多いが、泥漆喰の事例もみられる。後古典期には漆喰と泥漆喰が内壁と外壁とで分けられて施される事例がある。また、泥漆喰と漆喰が組合わせられる事例も見られる。

建造物の形：方形が多い。先古典期前期の建造物は楕円形の基壇が確認されている。唯一の事例であり、今後の事例増加と共にこれが特殊な事例かどうかを分析していく必要がある。先古典期中期には太平洋岸において階段状方形基壇もみられる。高地では、低い方形の建造物が多い。また、土の球戯場があったとされる。カミナルフユ遺跡では、階段状方形基壇もみられるが、低い基壇もみられる。エル・サルバドルでは低い方形基壇と階段状方形基壇があった可能性が高い。先古典期後期、太平洋岸では背の高い階段状方形基壇があった。カミナルフユ遺跡では階段状方形基壇があった。高地では、斜壁と垂直壁を組合わせた方形基壇もみられる。こうした建造物には、漆喰装飾が垂直壁に施された事例がある。アシエンダ・ロス・フローレス遺跡では先古典期後期に円形と思われる基壇が検出されている。古典期以降になるが、円形基壇はロス・シミエントス、ショルパコヤ遺跡などにみられる(図9-3, 4)。ロス・シミエントス遺跡では円形の石列のみであるが、ショルパコヤ遺跡では数段になる基壇があると報告されている(図9-4)。また、ウシュマル遺跡の楕円形ピラミッド(魔法使いのピラミッド)と似る建造物もみられる(図9-2)。

古典期前期～中期、太平洋岸では方形基壇がつくられる。数段になる場合と低い基壇の場合がある。階段に袖がつけられる基壇もある。赤彩された基壇もみられる。カミナルフユ遺跡では斜壁+張出し部+垂直壁の方形基壇から、タルー・タブレロ式の建造物に変化した。また、その周辺地域でもタルー・タブレロ式建造物が出現している。高地では、階段状方形基壇の階段中央にブロック状張出し部分や上部が垂直壁になる階段の袖部分がみられる。高地でもタルー・タブレロ式建造物が確認されている。エル・サルバドル地域では、土の大型住居が検出されている。また、ランパ若しくは階段がつけられる階段状方形基壇がある。古典期後期、太平洋岸では方形基壇がつくられる。袖がつく階段をもつ基壇もある。カミナルフユ遺跡では方形基壇がみられる。階段には袖部と中央に泥漆喰装飾が付けられる事例もある。高地では、斜壁、垂直壁や張出部を組み合わせる建造物もみられる。中央にブロック状部分や袖がつく階段を持つ基壇も多くみられる。上の建造物には祭壇がつけられた事例もある(図9-7)。エル・サルバドル地域では階段状方形基壇がみられる。

後古典期、太平洋岸やカミナルフユ遺跡とその周辺で建造物は検出されているが、その形は不明である。高地では、階段状方形基壇で階段中央にブロック状張出し部分、上部が垂直壁になる階段の袖部分がみられる。また、階段をいくつにも分ける上部が垂直壁になる袖部と同じ斜壁が階段に付けられる事例もある。上の建造物の内壁3辺にベンチ状部分がつく事例や基壇上の建造物にある部屋の奥などに祭壇がつくられる事例がある。エル・サルバドル地域では、方形基壇がある。また、カユップ遺跡では双子の神殿が確認されている(図9-5)。

建造物の方向軸：先古典期前期では、太平洋岸でN-E 42°が唯一確認されている。先古典期中期～後期には、太平洋岸、高地そしてエル・サルバドル地域で異なる軸を使っていたようである。しかし、一遺跡内では大体同じ軸を使っていた。このなかで、太平洋岸とグアテマラ高地では同じ軸を持つ事例があり、カミナルフユ地域とエル・サルバドルでも同じ軸を持つ事例があった。古典期前期～中期には、それぞれ様々な軸を各遺跡で使っていたようであるが、一遺跡内では大体同じ軸を使っていた。しかし、古典期後期若しくは後古典期になると様々な軸が使われるようになり、同じ遺跡内でも異なる軸が使われる事例が多くなる。

## おわりに

メソアメリカ南部太平洋側地域では以上みてきたように様々な建造物がある。以下、この地域の建造物の歴史で特徴的なことを検討し、この小論をまとめた。

先古典期より、太平洋岸やカミナルフユ遺跡を中心とした高地では土の建造物をつくり続けた。古典期中期には、カミナルフユ遺跡を中心とした地域では石やモルタルを使ったテオティワカン遺跡のタルー・タブレロ式建造物に変化した。しかし、古典期中期に途絶えたかにみえた土の建造物が、古典期後期になるとカミナルフユ遺跡では再びつくられる。仕上げも粗雑なモルタルや泥漆喰になり、タルー・タブレロ式建造物の影響から抜け出し昔の伝統が復活したと考えられる。

一方、カミナルフユ遺跡では、後古典期には例外を除き建造物がつくられていない。高地では、古典期後期から後古典期に、断崖を利用してピラミッド神殿をつくり、都市をつくった。大半は、平石を利用して建造物がつくられる。その数は非常に多くなる。

建造物の大きな時期的変化はテオティワカン勢力によるタルー・タブレロ式建造物に変化するときに、平石が主たる建築材になるときである。古典期後期～後古典期の平石が主に使われるようになるのは、グアテマラ高地の先古典期後期に始められる平石を建造物に使う方向を受け継いだものであったろうか、それともメソアメリカ他地域からの影響であったのかは不明である。しかし、メキシコ西部地方などでは平石を使った建造物が存在することを考えると、メソアメリカ北部からの影響ということも考えられる。

次に特徴的な建築材について検討する。メキシコ中央高原のテオティワカンの影響は古典期前期～中期にカミナルフユ遺跡を中心とした地域にみられる。カミナルフユ遺跡とその周辺ではテオティワカンのタルー・タブレロ式建造物をつくるために、軽石ブロックとモルタルが使われるようになる。軽石ブロックはテオティワカンをはじめとするメソアメリカの他地域ではみられない建築材である。タルー・タブレロ式建造物のために、カミナルフユで考案された可能性がある。古典期後期にはカミナルフユ遺跡では土の建造物が復活するが、一部で軽石ブロックも使われ続けた。エル・サルバドルでは、タルー・タブレロ式建造物がつくられた古典期中期には軽石ブロックが使われなかったが、古典期後期には使われている。軽石ブロックがカミナルフユ遺跡特有の建築材と考えられるならば、カミナルフユが没落した後にカミナルフユにいた人々がエル・サルバドルに移動した可能性も考えられる。

石ブロックはメソアメリカ南部太平洋側地域では先古典期後期に高地で使われるようになる。しかし、メソアメリカでは他にも石造建造物が盛んにつくられる地域があるため、今後メソアメリカの他地方とも比較し、その起源を探る必要がある。また、トナラ、メヒカノス遺跡などにみられる巨石建造物は何処からきたのか。アドベ・ブロックは他の地域でも先古典期より使われている。このため、他地域との関係を探る必要がある。

火山灰を石の外壁の中に詰めている建造物があるが、建造物内部をなるべく乾いた状態にするためとも考えられる。しかし、更に発掘調査や実験をするなどして明らかにすべきであろう。

建造物の方向軸については、先古典期チアパ・デ・コルソ遺跡のN-E 19-21°がイサパ遺跡やグアテマラ高地北斜面でも適用されている。この共通点は、それぞれの遺跡では固有の建造物を持っている為に、チアパ・デ・コルソ勢力の広がりからきているとは考えにくい。また、古典期後期から後古典期にかけて高地では一遺跡内で同じ方向軸を持つことが一般的ではなくなる。これは断崖の上にたてられた事情もあるかもしれない。

最後に、建造物をつくる過程を考える。この小論では地域が異なるため扱わなかったが、モタグァ川沿いにあるラス・ティナハス遺跡には完成した建造物以外に、石の集積がみられる。これらの石の集積は建造物の大きさぐらいになるものもある。また、征服期まで続いた遺跡であり、

こうした石の集積は建造物をつくる途中で放棄されたといわれる。これらのうち、13号建造物といわれる方形になる石の集積には中心に丸い川原石があり、その周りには平石が置かれてあった。ここの建造物は外壁が平石でつくられており、その内部は土と川原石でつくられている。他の完成した建造物と比較すると、これらの石の集積は建造物の建築途中の段階と考えられる。建造物をつくる過程を考えると、内部の土と川原石を積み上げるのと同時若しくはある程度積み上げた段階で外壁となる平石も積み上げていったと考えられる。このようにして基壇は築かれた可能性が高い。

以上のように、メソアメリカ南部太平洋側地域建造物研究は色々な問題を解決していく必要がある。今後はこうした問題点を見据えて調査をする必要があろう。

### 参 考 文 献

Agrinier, Pierre.

1969 Excavations at San Antonio, Chiapas, Mexico. *Papers of the New World Archaeological Foundation* 24, Provo, Utah.

1970 Mound 20, Mirador, Chiapas, Mexico. *Papers of the New World Archaeological Foundation* 28, Provo, Utah.

1975a Mound 1a, Chiapa de Corzo, Chiapas, Mexico. *Papers of the New World Archaeological Foundation* 37, Provo, Utah.

1975b Mound 9 and 10, Mirador, Chiapas, Mexico. *Papers of the New World Archaeological Foundation* 9, Provo, Utah.

Andrews, E. Wyllys V.

1976 *The Archaeology of Quelepa, El Salvador*. *Publication* 42, Middle American Research Institute, the Tulane University of Louisiana, New Orleans.

Arroyo, Bárbara.

1993 "El Proyecto Tecojate: últimos hallazgos del formativo temprano en el centro de la costa del Pacífico de Guatemala." En *IX Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala*, editado por Juan Pedro Laporte. y Héctor L. Escobedo., pp. 323-335. Museo Nacional de Arqueología y Etnología, Guatemala.

Austin, Donald M..

1969 "Mound B-II-1 Excavation." In *The Pennsylvania State University Kaminaljuyú Project-1968 Season, Part 1- The Excavations*, edited by William T. Sanders and Joseph W. Michels, pp. 99-136. University Park, Pennsylvania.

Ball, Joseph W.

1973 "B-V-8 Mound Group: A Late Formative and Middle Classic Elite Residence Complex." In *The Pennsylvania State University Kaminaljuyú Project-1969, 1970 Seasons, Part 1- The Mound Excavations*, edited by Joseph W. Michels and William T. Sanders, pp.159-214. University Park, Pennsylvania.

Bebrich, Carl A.

1969 "Mound B-III-1 Excavation." In *The Pennsylvania State University Kaminaljuyú Project-1968 Season, Part 1- The Excavations*, edited by William T. Sanders and Joseph W. Michels, pp. 45-97. University Park, Pennsylvania.

Bebrich, Carl A. and Jack T. Wynn.

1973 "B-V-6: A Late Formative Ceremonial Structure." In *The Pennsylvania State University Kaminaljuyú Project-1969, 1970 Seasons, Part 1- The Mound Excavations*, edited by Joseph W. Michels and William T. Sanders, pp. 67-157. University Park, Pennsylvania.

Berlin, Heinrich.

1952 "Excavaciones en Kaminaljuyú: Montículo D-III-13." *Antropología e Historia de Guatemala* 4-1, pp.3-18.

Blake, Michael. y Vicki Feddema.

1991 "Paso de la Amada: un resumen de las excavaciones, 1990." En *Primer Foro de Arqueología de Chiapas*, pp. 75-85, Tuxtla Gtz., Chiapas.

Boggs, Stanley H.

1943 "Notas sobre las Excavaciones en la Hacienda 'San Andres', Departamento de La Libertad." *Tzunpame* 3-1, pp. 104-126.

1945 "Informe sobre la Tercera Temporada de Excavaciones en las Ruinas de 'Tazumal.'" *Tzunpame* 4-5, pp. 33-45.

1967 "Excavations at Amulunga, El Salvador." *Katunob* Vol. VI, No. 2, p. 57.

Bove, Fredrick J., Sonia Medrano B., Brenda Lou P. and Bárbara Arroyo L.

1993 *The Balberta Project. University of Pittsburgh Memoirs in Latin American Archaeology* 6, Pittsburgh.

Brown, Kenneth L.

1973 "The B-V-11 Mound Group: Early and Middle Classic Civic Architecture." In *The Pennsylvania State University Kaminaljuyú Project-1969, 1970 Seasons, Part 1- The Mound Excavations*, edited by Joseph W. Michels and William T. Sanders, pp. 253-295. University Park, Pennsylvania.

1977 "The Valley of Guatemala: A Highland Port of Trade." In *Teotihuacan and Kaminaljuyu*, edited by Sanders, T. William and Joseph W. Michels, pp. 205-395. The Pennsylvania State University Press, University Park, Pennsylvania.

Bruhns, Karen Olsen.

1980 *Cihuatán: An Early Postclassic Town of El Salvador, the 1977-1978 Excavations. University of Missouri Monographs in Anthropology* 5, Columbia, Missouri.

Cardenas, D. Sean.

1969 "Mound B-II-1 Excavation." In *The Pennsylvania State University Kaminaljuyú Project-1968 Season, Part 1- The Excavations*, edited by William T. Sanders and Joseph W. Michels, pp. 99-136. University Park, Pennsylvania.

Cheek, Charles D.

1977 "Excavations at the Palangana and Acropolis, Kaminaljuyu." In *Teotihuacan and Kaminaljuyu*, edited by Sanders, T. William and Joseph W. Michels, pp. 1-204. The Pennsylvania State University Press, University Park, Pennsylvania.

Chinchilla M., Oswaldo.

1998 "El Baúl: un sitio defensivo en la zona nuclear de Cotzumalguapa." En *XI Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala*, editado por Juan Pedro Laporte. y Héctor L. Escobedo., pp. 375-385. Museo Nacional de Arqueología y Etnología, Guatemala.

Coe, Michael D.

1961 *La Victoria*. *Papers of the Peabody Museum of Archaeology and Ethnology* Vol. LIII, Harvard University, Cambridge.

De León, Francisco.

1996 *Proyecto de Rescate y Salvamento Arqueológico Kaminaljuyú*. Informe Final, Futeca. S.A., Guatemala.

Delgado, Agustin.

1965 *Archaeological Reconnaissance in the Region of Tehuantepec, Oaxaca, Mexico*. *Papers of the New World Archaeological Foundation* 18, Provo, Utah.

Demarest, Arthur A.

1986 *The Archaeology of Santa Leticia and Rise of Maya Civilization*. *Publication* 52, Middle American Research Institute, the Tulane University, New Orleans.

Dutton, Bertha. and Hulda R. Hobbs.

1943 *Excavations at Tajumulco, Guatemala*. *Monographs of the School of American Research* 9, Santa Fe, New Mexico.

Escobedo, Héctor L., Mónica Urquizú y Jeanette Castellanos.

1996 "Nuevas Investigaciones en Kaminaljuyú: excavaciones en los montículos A-V-II, A-VI-1 y sus alrededores." En *IX Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala*, editado por Juan Pedro Laporte y Héctor L. Escobedo, pp. 419-437. Museo Nacional de Arqueología y Etnología, Guatemala.

Estrada B., Francisco., Laura Kosakowsky, Ben Tomas, Ann-Eliza Lewis, John Schultz, Marc Wolf y Kim Berry.

1997 "La Arqueología de Santa Rosa." En *X Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala*, editado por Juan Pedro Laporte. y Héctor L. Escobedo., pp. 193-210. Museo Nacional de Arqueología y Etnología, Guatemala.

Ferdon, Edwin N. Jr.

1953 *Tonala, Mexico: An Archaeological Survey*. *Monographs of American Research* 16, Santa Fe, New Mexico.

Fowler, William R.

1977 Programa de Rescate Arqueológico Cerron Grande: sub-proyecto Hacienda Los Flores. *Colección antropología e historia* 6, Ministerio de Educación, San Salvador.

García, Edgar Vinicio.

1997 "Excavaciones en el Acceso a la Terraza 3, Abaj Takalik." En X Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala, editado por Juan Pedro Laporte. y Héctor L. Escobedo., pp. 167-191. Museo Nacional de Arqueología y Etnología, Guatemala.

Green, Dee F. and Gareth W. Lowe.

1967 Altamira and Padre Piedra, Early Preclassic Sites in Chiapas, Mexico. *Papers of the New World Archaeological Foundation* 20, Provo, Utah.

Hicks, Federick. and Charles E. Rozaire.

1960 Mound 13, Chiapa de Corzo, Chiapas, Mexico. *Papers of the New World Archaeological Foundation* 10, Provo, Utah.

Ichon, Alain.

1992 Los Cerritos-Chijoj: la transición epiclásica en las tierras altas de Guatemala. Centro de Estudios Mexicanos y Centroamericanos, México.

Kelley, Jane H.

1988 Cihuatán, El Salvador: A Study in Intrasite Variability. *Vanderbilt University, Publications in Anthropology* 35, Nashville, Tennessee.

Kidder, Alfred V., Jesse D. Jennings and Edwin M. Shook.

1946 Excavations at Kaminaljuyu, Guatemala. *Publication* 561, Carnegie Institution of Washington, Washington, D.C.

Kirsch, Richard W.

1973 "Mound A-VI-6: A Terminal Formative Burial Site and Early Postclassic House Platform." In *The Pennsylvania State University Kaminaljuyu Project-1969, 1970 Seasons, Part 1- The Mound Excavations*, edited by Joseph W. Michels and William T. Sanders, pp. 297-390. University Park, Pennsylvania.

Lee, Thomas A. Jr.

1970 Mound 4 Excavations at San Isidro, Chiapas, Mexico. *Papers of the New World Archaeological Foundation* 34, Provo, Utah.

Longyear, John M., III.

1944 *Archaeological Investigations in El Salvador. Memoirs of the Peabody Museum of Archaeology and Ethnology* Vol. IX, No. 2, Harvard University, Cambridge.

López, Roberto y Gustavo Martínez Hidalgo.

1992 "Excavaciones en el Montículo A-IV-2, Kaminaljuyu, Guatemala." En V Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala, editado por Juan Pedro Laporte, Héctor L. Escobedo y Sandra Villagrán de Brady, pp. 419-437. Museo Nacional de Arqueología y Etnología, Guatemala.



Lothrop, Samuel Kirkland.

1933 Atitlan. *Publication 444*, Carnegie Institution of Washington, Washington, D.C.

Lowe, Gareth W.

1962 Mound 5 and Minor Excavations, Chiapa de Corzo, Chiapas, Mexico. *Papers of the New World Archaeological Foundation 12*, Provo, Utah.

Lowe, Gareth W. and Pierre Agrinier.

1960 Mound 1, Chiapa de Corzo, Chiapas, Mexico. *Papers of the New World Archaeological Foundation 8*, Provo, Utah.

Lowe, Gareth W., Thomas A. Jr. Lee and Eduardo Martínez.

1982 Izapa: An Introduction to the Ruins and Monuments. *Papers of the New World Archaeological Foundation 31*, Provo, Utah.

McDonald, Andrew J.

1983 Tzutzuculi: A Middle-Preclassic Site on the Pacific Coast of Chiapas, Mexico. *Papers of the New World Archaeological Foundation 47*, Provo, Utah.

Martínez Hidalgo, Gustavo., Tannia Cabrera., Rubén Larios, Luis Salzar, Abel Aucar y Fernando Paniagua.

1998 "La Evolución de una Cuenca Hidrográfica en el Valle de Guatemala; una perspectiva arqueohistórica." En *XI Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala*, editado por Juan Pedro Laporte y Héctor L. Escobedo, pp. 397-409. Museo Nacional de Arqueología y Etnología, Guatemala.

Martínez Hidalgo, Gustavo., Tannia Cabrera. y Nancy Monterroso.

1996 "Urbanismo y Diseño Arquitectónico en la Plaza Mirador de Kaminaljuyú, Guatemala." En *IX Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala*, editado por Juan Pedro Laporte y Héctor L. Escobedo, pp. 397-409. Museo Nacional de Arqueología y Etnología, Guatemala.

Mason, J.Alden.

1960 Mound 12, Chiapa de Corzo, Chiapas, Mexico. *Papers of the New World Archaeological Foundation 9*, Provo, Utah.

Medrano, Sonia.

1996 "La Población Rural de Santa Elisa Pacaco, Retauleu." En *IX Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala*, editado por Juan Pedro Laporte y Héctor L. Escobedo, pp. 601-617. Museo Nacional de Arqueología y Etnología, Guatemala.

Navarrete, Carlos.

1972 "El Sitio Arqueológico de San Nicolás, Municipio de Ahuachapán, El Salvador." *Estudios de Cultura Maya 8*, pp. 57-66.

Parsons, Lee Allen.

1967 Bilbao, Guatemala Vol. 1. *Publications in Anthropology 11*, Milwaukee Public Museum,

Milwaukee, Wisconsin.

1969 **Bilbao, Guatemala** Vol. 2. *Publications in Anthropology* 12, Milwaukee Public Museum, Milwaukee, Wisconsin.

Peterson, Fredrick A.

1963 **Some Ceramics from Mirador, Chiapas, Mexico.** *Papers of the New World Archaeological Foundation* 15, Provo, Utah.

Ponciano, Erick M.

1993 "Sector Habitacional del Clásico Tardío en el Sitio Arqueológico Flamenco, Retauleu, Guatemala." En **III Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala**, editado por Juan Pedro Laporte., Héctor L. Escobedo. y Sandra Villagrán de Brady, pp. 327-338. Museo Nacional de Arqueología y Etnología, Guatemala.

Rivero T., Sonia E.

1987 **Los Cimientos, Chiapas, Mexico: A Late Classic Maya Community.** *Papers of the New World Archaeological Foundation* 51, Provo, Utah.

Reynolds, John. and D. Sean Cardenas.

1973 "B-V-4: A Late Formative Ceremonial Structure and Middle Classic Residence Complex." In **The Pennsylvania State University Kaminaljuyú Project-1969, 1970 Seasons, Part 1- The Mound Excavations**, edited by Joseph W. Michels and William T. Sanders, pp. 215-252. University Park, Pennsylvania.

Román, Otto R.

1990 "Hallazgo Preclásico Medio en Kaminaljuyú." En **III Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala**, editado por Juan Pedro Laporte., Héctor L. Escobedo. y Sandra Villagrán de Brady, pp. 209-218. Museo Nacional de Arqueología y Etnología, Guatemala.

Robinson, Eugenia J.

1993 "Santa Rosa, un Sitio Defensivo de los Altiplanos de Guatemala." En **VI Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala**, editado por Juan Pedro Laporte., Héctor L. Escobedo. y Sandra Villagrán de Brady, pp. 409-428. Museo Nacional de Arqueología y Etnología, Guatemala.

1994 "Chitak Tzak: un centro regional postclásico tardío de los mayas kaqchikel." En **VII Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala**, editado por Juan Pedro Laporte. y Héctor L. Escobedo, pp. 175-184. Museo Nacional de Arqueología y Etnología, Guatemala.

Sánchez, Mariana.

1995 "El Grupo Este, Marinala, Escuintla: análisis funcional." En **VIII Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala**, editado por Juan Pedro Laporte. y Héctor L. Escobedo, pp. 61-73. Museo Nacional de Arqueología y Etnología, Guatemala.

Sanders, William T.

1961 **Ceramic Stratigraphy at Santa Cruz, Chiapas, Mexico.** *Papers of the New World Archaeological Foundation* 13, Provo, Utah.

Schieber de Lavarreda, Christa.

1994 "Abaj Takalik: hallazgo de un juego de pelota del preclásico medio." En **VII Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala**, editado por Juan Pedro Laporte. y Héctor L. Escobedo, pp. 95-111. Museo Nacional de Arqueología y Etnología, Guatemala.

Sharer, Robert J. (ed.)

1987 **The Prehistory of Chalchuapa, El Salvador** Vol. 1-3. The University Museum, University of Pennsylvania, Philadelphia.

Sharer, Robert J. and David W. Sedat.

1987 **Archaeological Investigations in the Northern Maya Highlands, Guatemala.** *University Museum Monograph* 59, The University Museum, University of Pennsylvania, Philadelphia.

Sheets, Payson D.

1983 **Archaeology and Volcanism in Central America: The Zapotitan Valley of El Salvador.** University of Texas Press, Austin.

Shook, Edwin M.

1952 "The Ruins of Cotio, Department of Guatemala, Guatemala." *Notes on Middle American Archaeology and Ethnology* No. 107, Carnegie Institution of Washington, Washington D.C.

Shook, Edwin M. and Alfred V. Kidder.

1952 **Mound E-III-3, Kaminaljuyu, Guatemala.** *Contributions to American Anthropology and History* No. 53, Carnegie Institution of Washington, Washington D.C.

Shook, Edwin M. and A. Ledyard Smith.

1942 " Guatemala: Kaminaljuyu." *Carnegie Institution of Washington, Yearbook* 41, pp. 263-267.

Smith, A. Ledyard.

1955 **Archaeological Reconnaissance in Central Guatemala.** *Publication* 608, Carnegie Institution of Washington, Washington, D.C.

1965 "Architecture of the Guatemalan Highland." In **Handbook of Middle American Indians** Vol. 2, edited by Gordon R. Willey, pp. 76-94. University of Texas Press, Austin.

Smith, A. Ledyard. and Alfred V. Kidder.

1951 **Excavations at Nebaj, Guatemala.** *Publication* 594, Carnegie Institution of Washington, Washington D.C.

Suasnávar, José. y Rosa María Flores.

1992 "Plataformas Preclásicas y Rasgos Asociados en el Grupo A-IV-1 de Kaminaljuyú." En **V Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala**, editado por Juan Pedro Laporte, Héctor L. Escobedo y Sandra Villagrán de Brady, pp.13-24. Museo Nacional de Arqueología y Etnología, Guatemala.

Thompson, J. Eric.

1948 **An Archaeological Reconnaissance in th Cotzumalhuapa Region, Escuintla, Guatemala.** *Contributions*

to *American Anthropology and History* 44, Carnegie Institution of Washington, Washington D.C.

Velásquez, Juan Luis.

1997 "Evidencias del Postclásico Temprano en el Centro de El Salvador." En **X Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala**, editado por Juan Pedro Laporte. y Héctor L. Escobedo., pp. 251-258. Museo Nacional de Arqueología y Etnología, Guatemala.

Wauchope, Robert.

1948 **Excavations at Zacualpa, Guatemala**. *Publication* 14, Middle American Research Institute, the Tulane University of Louisiana, New Orleans.

Webster, David.

1973 "The B-V-11 Mound Group: A Middle Classic Elite Residence." In **The Pennsylvania State University Kaminaljuyú Project-1969, 1970 Seasons, Part 1- The Mound Excavations**, edited by Joseph W. Michels and William T. Sanders, pp.253-295. University Park, Pennsylvania.

Woodbury, Richard B. and Aubrey S.

1953 **The Ruins of Zaculeu, Guatemala**. Richmond, VA.

Whitley, David S. y Marilyn P. Beaudry.

1989 **Investigaciones Arqueológicas en la Costa Sur de Guatemala**. *Monograph* 31, Institute of Archaeology, University of California, Los Angeles.